

ver1.1から大改修して、性懲りも無く投下。
沈静は呼吸法に統一
誘導はイメージ法に統一
幽体離脱する部分はバッサリカットしました。(難易度高くて諦めた...orz)
「」内はメリーさんの台詞です。

= 誘導パート =

こんばんは。
今からおやすみですか？
それなら、おやすみの前にひとつお話をしてあげます。
とってもとっても楽しいお話。
どんな遊びよりも、ゲームよりも楽しいよ。

でも、その前に...気持ち良くなれるおまじない。
私の言うとおりにやってみて。
ゆっくりと目を閉じる。

まず、あなたが一番リラックスできる呼吸をしましょう。
自分のペースで、自由に、で構いませんよ。

鼻から吸って。
鼻から吐く。

寝息を立てるように。
小さな呼吸を繰り返す。
呼吸をしながら、手足の力を抜きましょう。

鼻から吸って。
鼻から吐く。

これからお休みするので。
体を動かす力は必要はありません。
だから、ゼーンぶ抜いてしまいましょう。
(5秒無音)

リラックスできましたか？
今のこのリラックスした状態をよく体と頭に馴染ませておいてね。

今度は深い呼吸をしてみましょう。
鼻から大きく吸い込んで、口からゆっくり吐き出す。
自分のペースで、ゆっくりと、で構いませんよ。

鼻からゆっくり吸い込んで。
口から深く吐き出す。

空気を味わうように。
大きく吸い込む。
新鮮な酸素を得た頭が、リラックスします。

鼻からゆっくり吸い込んで。
口から深く吐き出す。

深い呼吸は。
さっきの呼吸とは、また違った感覚が味わえますね

普段は意識しない事だけど。
意識して呼吸すると、気持ち良い。
呼吸するだけで、気持ち良い。
息をするだけで気持ち良くなれる。
(5秒無音)

気持ち良くなれましたか？
今のこの気持ちいい状態をよく体に馴染ませておいてね。
それじゃあ、元の楽な呼吸に戻しましょう。

今から私が言う事をイメージしてみて。
鮮明にイメージ出来なくても構いません。
私の声に集中して。
それだけで良いの。

暗い空間をイメージしましょう。
あなたは今、その暗い空間の中に立っていて、周りは冷たい空気で満ちています。
地下の迷宮のような、なんだか寂しい場所です。
うっすらと、あなたの足元に階段が見えます。
この階段はあなたの心そのもの。
自分の知らない心の奥底にたどり着く唯一の手段。
さあ。
今からこの階段を下りていきましょう。
段差に足を掛けて。
階段を降りるイメージ。

1
2
3

静かな空間に足音が響きます。
冷たい空気を肌に感じます。
もっと降りていきましょう。

4
5
6

足を進めるにつれて。
疲れてきたのか、少し足が重たくなってきました。
もっと降りていきましょう。

7
8
9

重たい。
足が重たい。
足が...何度も段差を落ちる。

10
11
12

今度は頭が重くなってきました。
体が前のめりになりそうです。
凄く重たくて、眠たいです。

13
14
15

意識がぼんやりしてきます。
頭がふらふらしています。
でも、体だけはちゃんと階段を下りていきます。

16
17
18

でも、このまま眠ってしまうと。
階段を転げ落ちてしまいます。
それが怖いから、意識はちゃんと残ったままです。

19
20
21

階段を降りているだけの。
頭がボーッとして。
気持ち良い。

22
23
24

なんで階段を下りているのか？
どこに向かっているのか？
そんな事、考えなくて良い。

25
26
27

ただ、降りれば良いの。
ずっと。
ふかーい場所に、ね。

28
29
30

今から私が手を叩いて合図をします。
合図を聞くとあなたの落ち込んだ意識は一瞬で元に戻ります。
(手を叩く音)

お帰りなさい。
ちゃんと戻って来れましたね。
どこに行っていたんですか？
階段？
そんな所に何しに行ったんですか？
なんだか切なそうですね。
そうですか。
じゃあ、その階段の続き。

降りて良いですよ。
降りれば、降りる程。
気持ち良いんですよね。
行ってらっしゃい。

さあ、階段に戻ってきました。
さっきの続きを降りていきましょう。

31
32
33

さっきよりも、深く。
もっと深く。

34
35
36

降りれば降りる程。
頭がぼんやり。

37
38
39

階段を下りるのが。
疲れる。
だるい。

40
41
42

意識を保つのが。
めんどくさい。
つらい。

43
44
45

でも、意識は消せない。
どんなに小さくなくても。
どんなに薄くなくても。

46
47
48

階段を落ちるのが怖いから。
その本能だけで。
意識は保ち続ける。

49
50
51

凄く眠たいのに。
凄く疲れてるのに。
意識は消せない。

52
53
54

ずっと。
永遠に。
眠れないのかな？

55
56
57

どこまで。
いつまで。
降り続けるのかな？

58
59
60

(カウントフェードアウト。70ぐらいまで？)

お疲れ様。
一番下まで到達しました。
眠たいのを我慢して、よく頑張ったね。
そんなあなたに御褒美を用意してあります。

はい、イメージしましょう。
あなたが足を着けるのは階段の最後の段です。
その段から先は、何もありません。
ただ、真っ黒い広い空間だけが広がっています。

あと一步。
あと一步踏み出せば、あなたはその空間に落ちてしまうでしょう。
怖がらなくて良い。
地面なんてない。
果てしなく空間が広がってるだけ。
だから、永久に落ち続ける事が出来ます。

自分で降りる必要はありません。
意識を保つ必要もありません。
身を任せるだけで、気持ち良くなれる。
全部、消しちゃって良い。
凄く眠たい今のあなたにとっては、天国みたいな場所だよね。

階段を降りるのは気持ち良い事。
空間に落ちるのは...もっと気持ち良い事。
良い御褒美でしょう？
気に入ってくれた？
早く落ちてみたいね。

今から私が手を叩いて合図をします。
そうしたら、飛び込んでいいから。

飛び込んだら、あなたの意識は落ちていく。
階段を降りるよりも速く。
自分で降りるよりも気持ち良く。

だから。
好きなだけ落ちて。
思う存分落ちて。
いいからね。
あなたが満足しても。
落ちるのは止まらない。
もう戻れないからね。
それじゃあ...行ってらっしゃい。
(手を叩く音)

落ちる。
意識が落ちる。
意識が消えていく。

眠ってしまったあなたの思考は。
正しい判断ができません。
だから、私の声だけが頼り。
本当の方向が分からないので。
私の声が示した方向に重力を感じてしまいます。

足元に空間が広がります。
足先から、ずーと落ちていく。
意識が落ちていく。
空間へ沈んでいく。

気持ち良い。
落ちていく感覚が気持ち良い。
落ちていくと気持ち良い。
気持ちいいから落ちていく。
それがずっと続く。
永遠に繰り返される。
だから、ずーっと深く、気持ち良いまま。

背後に空間が広がります。
背中から、ずーと落ちていく。
意識が落ちていく。
空間へ沈んでいく。

落ちていく感覚に身を任せて。
永遠に沈み続けて。
どこに行くんだろう？
どこまで行くんだろう？
そんなの、考えなくて良い。
ただ、落ちていけば良いの。
気持ち良いまま、落ちていけば良い。

頭上に空間が広がります。
頭から落ちていく。
真っ逆さま。
意識が落ちていく。
空間へ沈んでいく。
頭から落ちると、一番気持ち良い。

今いるこの世界を離れて。
果てしなく深い場所に沈んでいきましょう。
気が遠くなるような距離を離れて。
ずーっと、ずーっと...
(3秒無音)

気持ち良いから、もう戻ろうとは思わない。
気持ち良いから、もう戻らなくて良い。
気持ち良いから、もう戻りたくない。
気持ち良いから、もう戻って来れない。

気持ち良さに酔いしれながら、ひとつ思い出して欲しい事があります。

何でしょうか？
私が最初に言った事。
『おやすみの前のお話』ですね。
はい、約束通り、今からお話しましょう。

『メリーさん』って、知ってる？
有名なお話だよな。
君も聞いた事くらいあるでしょ？
メリーさんって、女の子がいてね。
電話を掛けてきて、こう言うの。

あたし、メリーさん。今、あなたの街にいるの。

しばらくしたら...また電話が掛かってくる。

あたし、メリーさん。今、あなたの家の近所にいるの。

回数を重ねる度に、近くなる。

あたし、メリーさん。今、あなたの家の前にいるの。

どんどん、どんどん近づいてくる。

あたし、メリーさん。今、あなたの部屋の前にいるの。

ほら、もうそこにいるよ。

あたし、メリーさん。今、あなたの後ろにいるの。

その後は...お楽しみ。

ほら、想像してみて。
メリーさんに捕まった後の事。
彼女に捕まっちゃったら、どうなるんだろう？
そんな事を考えるだけで、胸がドキドキしてきます。

ドキドキ。
ドキドキ。

どうなっちゃうのかな？
何をされちゃうのかな？

ドキドキ。
ドキドキ。

男の子だったら、勇気があるよね？
好奇心でもっと胸がドキドキしてきます。

ドキドキ。
ドキドキ。

このドキドキは、どっちなのでしょう？
期待？
恐怖？

ドキドキ。
ドキドキ。

じゃあ、一旦そのドキドキを忘れて、私の声をよく聞いて。
今までのおまじないは楽しい儀式です。
メリーさんに会うための儀式です。

せっかく、ここまで来たんだから、メリーさんに会いましょう。
気に入られたら、たくさんたくさん遊んでくれる。
気に入られなかったら...どうなるんだろうね？

もう逃げ場所はないよ。
だって、戻れない所まで来ちゃったもんね。
気持ち良さに釣られて、ここまできちゃったもんね。

メリーさんはとっても不思議な存在。
彼女はこの世の全ての感情を知っている。
彼女はこの世の全ての恐怖を持っている。
彼女が近づくだけで、あなたの心はドキドキが強くなる。
彼女を感じるだけで、あなたの体は敏感になる。

空間に漂ってる今のあなたは無防備な状態。
メリーさんに会うためにはそれだけで良い。
そのままドキドキしながら待ってれば良いの。
そうすれば、彼女の方から近づいてきてくれる。
あなたの魂を奪いに...ね。
(3秒無音)

「あたし、メリーさん。今、あなたの世界にいるの。」

さあ、鬼ごっこが始まりました。
メリーさんがあなたを探していますね。

「あたし、メリーさん。今、あなたの国にいるの。」

どんどんあなたに近づいてきます。
もう、見つかったのかな？

「あたし、メリーさん。今、あなたの街にいるの。」

胸がもっとドキドキしてきます。
ドキドキ。
ドキドキ。

「あたし、メリーさん。今、あなたの家の近所にいるの。」

このドキドキは、どっちのドキドキなのでしょう？

よく分からないね。
(チャイムの音)

「あたし、メリーさん。今、あなたの家の前にいるの。」

メリーさんに追い詰められてるから？
メリーさんに捕まった後の事考えてるのかな？
(扉をノックする音)

「あたし、メリーさん。今、あなたの部屋の前にいるの。」

ふと、敏感になった感覚が...気配を感じます。
確かに、何かが部屋の外に居る。
(扉を開く音)

「あたし、メリーさん。今、あなたの部屋の中にいるの。」

すぐ傍に存在を感じる。
舐めるような視線を感じる。
(歩く音)

「あたし、メリーさん。今、あなたの傍にいるの。」

すぐ近くに存在を感じる。
頭が冷たくなる。
心が感情で震える。
体中の感覚が研ぎ澄まされる。

ドキドキ。
ドキドキ。

ドキドキに浸りながら、今から私が言う事をよく聞いて。
メリーさんに気に入られなかったら。
あなたは暗い闇の底に沈む。
けど...メリーさんに気に入られたら。
あなたの研ぎ澄まされた感覚は、快感を感じるために使われるの。
この事を忘れないで。

次に来る感覚に集中する。
体中の神経がそれだけになる。
それだけで、体中が敏感になる。
胸がもっとドキドキする。

ドキドキ。
ドキドキ。

「捕まえた 」

= アダルトパート =

メリーさんはとっても不思議な存在。
彼女はこの世のすべての快感を知っている。
彼女はこの世のすべての快樂を持っている。
彼女の声を聞くだけで、あなたの耳から甘い感覚が脳に流れ込んできます。
声の振動が頭の中をかき混ぜて、脳髓がトロトロに溶けてしまう。
彼女に触れられるだけで、それだけであなたは気持ち良くなってしまう。

体から緊張が消え失せ、触られた所が勝手に性感体になってしまう。
触れられるだけで、体の神経が目一杯の限界まで感じるようになるの。

メリーさんの指先が、あなたの右頬に触れます。
触れられただけなのに。
それだけなのに...右頬が気持ち良くなってきます。
痺れるような、とてもせつない感覚。

スリスリ。
スリスリ。

気持ち良い。
右頬が気持ち良い。
メリーさんの手で気持ち良い。

指先が唇に近づいてきます。
上唇を右から左に、ゆっくりとなぞられる。

スリスリ。
スリスリ。

気持ち良い。
上唇が気持ち良い。
メリーさんの指で気持ち良い。

今度は下の唇。
左から右に、ゆっくりとなぞられる。

スリスリ。
スリスリ。

気持ち良い。
下唇が気持ち良い。
メリーさんの指で気持ち良い。

あなたの唇はとても切なくなります。
唇を使うあの行為が、あなたの頭に浮かぶ。
欲しくて、欲しくて溜まらない。
切ない。
切なくて、勝手に口が開いてしまう。
開いた唇を、メリーさんが撫でる。

スリスリ。
スリスリ。

気持ち良い。

スリスリ。
スリスリ。

気持ち良い。

「可愛い唇」

ゆっくりと、唇の気持ちよさが、
顔全体へと広がる。

...この感覚は。
これはあなたが望んでいた行為。
そう考えるだけで、意識が唇に集中する。

...今、自分はメリーさんと。
これはメリーさんに気に入られた証。
そう考えるだけで、快感が唇に集中する。

口いっぱい味わう。
この感覚に酔いしれる。
向こうの唇から甘い快感が送られる。
あなたはそれを飲み干す。
快感が体に吸収される。
全身に流れる。

気持ち良い。
全身が気持ち良い。
メリーさんの唇で気持ち良い。

「もっと可愛くなってね」

(考え中)

アダルトパート良いアイデアほしー